



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(六十二)

令和六年能登半島地震

行茶傾聴活動「おぼうさんカフェ」

副会長 山崎 秀典
やまだき しゅうてん

令和六年能登半島地震の発生より、全曹青災害復興支援部（以下、支援部）では各青年会と連携し、発災当初は不足する物品提供、避難所での炊き出しを実施、そのコーディネートをしてまいりました。

九月下旬には、避難所から仮設住宅への移動がほぼ完了し、行茶活動募集の発信をしようとした矢先に豪雨災害が発生しました。行茶活動は控えたいという意見も出ましたが、「大雨も重なった今だからこそ、話を聴きにきて欲しい」



という声を現地より頂戴し、常駐されているシャンティ国際ボランティア会（SVA）と協力し、九月より行茶傾聴活動「おぼうさんカフェ」を行っております。

行茶は被災者の方に、心休まるひと時を提供する活動です。お話をされる方の「本当の声」を聴くためには「自然」であることが大切であり、また赴く側も持続的なものでありたいと考えています。

支援部ではそのために、以下の三点に留意しております。一点目が事前準備です。私たちを含め、参加された方にとって「また来たい」「またおぼうさん（皆さん）」との時間を過ごしたいと感じていただけるような関係性を築き、つなげていけるよう、責任者との打ち合わせや情報共

有といった事前準備に注力しています。

二点目は信頼関係の構築です。不安や様々な感情に耳を傾けることは、良好な信頼関係の上にこそ成り立つものだと思います。そのため、布教的な言動には注意する必要がありますが、私たちが宗



教者、僧侶であることは変えようありません。また活動の中心である門前町の方がたは、總持寺祖院のことを「本山」とおっしゃり、今なお大切に想ってくださいております。そういった方がたへ、布教・伝道の誤解とならないことを前提として、私たちが僧侶であることを含む宗教的資源（宗教観・死生観的対話、数珠づくりやお地藏さまをお届けするなど）、青年僧侶であるメリットを最大限に活用しながら、よりよい関係を作り上げたいと思います。

三点目は、これまでの歩みを活かし、活動をつなげていくことです。支援部

は平成二十一年、第一期より常設されましたが、前身であるボランティア委員会、更にそれ以前より行われてき

た活動のつながりがあって、今の活動がなされています。また宗務庁・各曹青会をはじめ、多くの方・団体のお力添えを賜りながら、様々な災害において、活動を続けることができました。その蓄積を活かせるよう、これまでの先任者からの情報、経験などをもとにしながら、活動計画やガイドライン作成を行っています。

これらを活かしながら、被災された方が日常と、自分自身をゆつくりと取り戻していただけるように、これからも活動してまいります。



● 執筆者プロフィール

山崎秀典

曹洞宗山梨県青年会 所属